

—印象に残っている先生はいますか。

実は三年間、現代文の担当が中野優子先生だったんですよ。先生の授業は三分間スピーチとか新聞記事を自分なりにまとめてクラスで発表するというモノが多くて。僕はそういった事が好きで僕なりにまじめに取り組んだんですよ。そのおかげであまり成績が良くなかった中、現代文だけ年々成績が上がっていった最終的にへらへらを取れたのは嬉しかったですね。親しみやすい先生の性格もあり、中野先生は印象に残っていますね。

—昨年、お子様が生まれたと伺いました。公私共にご自身が指導する立場となりましたが、どういった事に注意されていますか。

そうですね。指導者が枠を作ってしまうのは良くないと思うんです。枠があると生徒は枠の中です。成長しない。指導者の想像を超えて成長することがなくなってしまうんですよ。子どもの可能性の制限です。伸びてくるモノは伸ばし、道に逸れたら修正してあげる。そういう意味で教育って手入れの思想だと思います。

—最後に今後は鶴ヶ丘とどのように関わっていらっしゃいますか。

—最後に今後は鶴ヶ丘とどのように関わっていらっしゃいますか。

近年、教員としての立場として見えますが、地理学科に来る鶴ヶ丘出身の生徒は勉強を頑張る子も来るし、将来有望そうな面白い子も来ているように感じます。逆にそういう意味では鶴ヶ丘に感謝して

いますし、そういう子たちを指導していければ、と思いますね。

—本日はありがとうございました。

